大阪有機化学工業株式会社	
2024年11月期 第2四半期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨	
日時	2024年7月12日(金) 14:00~15:00
開催場所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 (東京都中央区大手町2-2-2; 野村証券 アーバンネット大手町ビル) *電話会議システム使用
当社出席者	・代表取締役社長 安藤 昌幸 ・取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一
参考資料	「2024年11月期 第2四半期 決算説明会資料」 (2024年7月11日開示)

※この資料は、電話会議における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

Q-1	化成品事業 好調の背景について
A-1	<p>海外向けの光学粘着剤材料やUVインクジェット用原料が好調であった。光学粘着剤の主な用途はテレビで、台数増や大型化の促進により使用量が増加した。また、当社のお客様のシェアが高まっていることも大きな要因ととらえている。</p> <p>これら生産量の増加により稼働率が上がり、また、かねてより進めてきた製品の統廃合による、生産設備の効率化によって利益率向上した。</p> <p>今後も化成品事業では利益率10%以上を継続したいと思っている。</p> <p>9月以降はテレビの生産も落ち着くとみていて、下期は2Qのレベルよりは若干下がると予想している。</p>
Q-2	ArFレジスト原料の状況について
A-2	<p>ピーク時の2022年の売上高に比べて、現在は1~2割低い状況。</p> <p>QoQでは増えてきているが足取りは重い。</p> <p>当初は夏ごろ回復かと思っていたが、ここへきてようやくお客様の在庫もはけてきた模様で、回復は秋以降になるとみている。</p> <p>回復遅れはあくまでも在庫調整が長引いたことによるもので、競合がでてきたとか、技術の変化があったということではないと認識している。</p>
Q-3	EUVの状況
A-3	<p>用途は当社からは見えないが、最先端のロジックかDRAMと認識している。</p> <p>当社のEUV材料の売上げは、年率50%増くらい伸びてきており、今期もそれくらいは伸びるとみている。</p>

Q-4	新規電子材料について
A-4	<p>位相差材料を中心とした光学系の材料で、いくつかの種類がある。</p> <p>ディスプレイ用の光学補償材料や車載用の同様の材料などを展開している。</p> <p>特にディスプレイ用はラインテスト中で確度が高いと期待している。</p> <p>いずれもまだ定常品にはなっていないので見通しは立てにくいですが、将来的には今の2倍くらいにはなると思っている。</p>
Q-5	新規設備について
A-5	<p>昨年完成した新設備では、主に認定取得のための生産を行っている。</p> <p>多くの品種のそれぞれについて認定を取る必要があり、そのために設備の稼働率が高い状況が続いている。</p> <p>認定が全て取れて本格的に生産状況となる時期はまだ読めていない。</p> <p>最先端の試験研究設備も完成し稼働をしている。</p> <p>今期中には次の新設備設計に入っていかなければならないと思っている。</p>
Q-6	海外事業について
A-6	<p>中国では化粧品原料や化成品関連が伸びている。</p> <p>アメリカでは主に、化成品事業のインクジェット・3D・歯科材料関係の原料となる特殊アクリレートを販売している。今後、電子材料を含めフィールドを広げるため、販売拠点を設ける検討を始めている。</p>

以上